

【最優秀賞】

団体名	兵庫県教育委員会・県内全市町組合教育委員会
活動の内容（概要）	<p>兵庫県では、心の教育の充実を図ることの大切さを認識し、地域に学び、共に生きる心や感謝の心を育み、生きる力の育成を図っていくため、中学2年生全員を対象に地域の中で1週間の体験活動を行う「トライやる・ウィーク」事業を実施している。</p> <p>活動は、生徒の興味・関心に応じて、農林水産体験や職場体験、文化・芸術創作体験活動、ボランティア・福祉体験などが行われている。</p> <p>生徒が体験をもとに職業や生き方に関心を寄せて将来を意識することにより、時を経て体験者に根付いている等の成果を上げており、生徒の社会的自立の基礎作りがなされている。</p>

受賞理由

- ・社会体験活動のパイオニアとしての組織的な協力体制が確立されている。
- ・平成10年度開始以来、時代の流れや企業の経済環境の変化等にも対応しながら継続してきた推進力・実践力・組織力を評価。
- ・原点を踏まえた活動の深化、ふるさと意識の醸成、事前事後指導の充実、推進協議会の活性化など、重点項目を設定して、常に創意工夫のもと活動が実践されている。
- ・社会体験活動の先駆者として高く評価することができる。その反面、維持・継続するためのエネルギーと負担等は察して余りある。今後は体験者（卒業生）による活動への支援（恩返し）体制の確立などによって更なる発展が期待される。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

市町組合教育委員会、兵庫県中学校長会、兵庫県社会教育委員協議会、（公財）兵庫県体育協会、兵庫県内全公立中学校、中等教育学校及び市立特別支援学校

【行政】

○推進支援会議を設置。

構成団体：企画県民部企画財政局、健康福祉部社会福祉局、産業労働部政策労働局、農政環境部農政企画局、県土整備部県土企画局、企業庁、病院局、警察本部生活安全部

【地域・社会】・【産業界】

○県「トライやる・ウィーク」推進協議会を設置。

構成団体：（公社）兵庫県防犯協会連合会、兵庫県民生委員児童委員連合会、（公財）兵庫県青少年本部、（公財）兵庫県芸術文化協会、（社）兵庫県保育協会、（一財）兵庫県交通安全協会、日本赤十字社兵庫県支部、兵庫県PTA協議会、兵庫県ボランティア協会、兵庫県連合婦人会、兵庫県青年洋上大学同窓会、（一社）ガールスカウト兵庫県連盟、日本ボーイスカウト兵庫連盟、（一社）兵庫県子供会連合会、兵庫県連合自治会、ライオンズクラブ国際協会335-A地区、ライオンズクラブ国際協会335-D地区、兵庫県公民館連合会、こころ豊かな人づくり神戸500人委員会OB会、（一社）兵庫県老人福祉事業協会、国際

ロータリー第2680地区、(公財)神戸YMCA、(公財)神戸YWCA、(公財)兵庫県老人クラブ連合会

兵庫県商店連合会、日本労働組合総連合会兵庫県連合会、(公社)日本青年会議所近畿地区兵庫ブロック協議会、(公財)兵庫県生きがい創造協会、兵庫県農業協同組合中央会、兵庫県中小企業団体中央会、兵庫県漁業協同組合連合会、生活協同組合コープこうべ、(社)兵庫県医師会、(社)兵庫県私立幼稚園協会、(一財)兵庫県学校厚生会、兵庫県森林組合連合会、兵庫県商工会連合会、兵庫県ユースホステル協会、兵庫県農業経営士会、兵庫県消費者団体連絡協議会、兵庫県経営者協会、兵庫県いなみ野学園同窓研修会、兵庫県商工会議所連合会、(社福)兵庫県社会福祉協議会、(公財)兵庫県消防協会、兵庫県酪農農業協同組合連合会、(公社)兵庫工業会、(公社)兵庫県看護協会、兵庫県技能士会連合会、

○県内受入協力企業及び事業所(平成24年度 17, 312か所)

活動開始の経緯

平成7年1月の阪神・淡路大震災は甚大な被害をもたらす一方、自他の生命や人権を尊重する心、ボランティア精神、共に生きる心の育成など多くの貴重な教訓をもたらした。

兵庫県においては、これらの教訓を生かすべく「生きる力」を育む教育の充実を図るため、様々な取組をすすめてきたが、その矢先、平成9年には神戸市須磨区での大変痛ましい事件が発生した。この事件は人間としての在り方・生き方を改めて考えさせるとともに、社会生活上のルールや倫理観の育成、善悪の判断、自己責任の自覚や自律・自制の心の涵養など「心の教育」の充実を図ることの大切さを再認識させることとなった。

兵庫県教育委員会では、この「心の教育の在り方」という課題について検討するため「心の教育緊急会議」を設置した。この会議では、これからの「心の教育」には、従来のように結論を教え込むのではなく、活動や体験を通して、子供たち一人一人が自分なりの生き方を見つけられるよう支援していく教育にシフトしていくことの重要性が指摘された。それとともに、提言の具現化に向けた取組の一つとして中学生の長期体験学習の導入が提唱され、平成10年から「トライやる・ウィーク」事業が始まった。

活動実績

1 参加校数・人数等(平成24年度)

- ・実施校は、公立中学校・県立中等教育学校前期課程2年生全員 366校
(全公立中学校347校、県立中等教育学校1校、市立特別支援学校18校)
- ・参加生徒数は、49,514名(内数：特別支援学級531名、市立特別支援学校115名)
- ・実施期間：6月中心実施(235校)11月中心実施(131校)、1週間
- ・活動場所：17, 312か所
- ・指導ボランティア数：22, 855名

2 活動内容(平成24年度)

職場体験活動	84.4%	農林水産体験活動	2.4%
ボランティア福祉体験活動	7.3%	その他	2.2%
文化・芸術創作活動	3.7%		

3 特色ある取組（平成 24 年度）

・有馬温泉での炭酸せんべいの製造 ・和ろうそく作り ・名塩和紙製作体験 ・釣りさお、釣針製造 ・そろばんづくり ・もちむぎ麺づくり ・自治会、婦人会との連携で地域のPR活動 ・カキの殻むき ・鬼瓦製作 ・ふき戻しの製作 ・さをり織り作業 ・金星太陽面通過観測



牧場における業務 乳牛の搾乳作業を行っている。



発電所での業務

発電の関するメーターの数値の確認を行っている。

4 発展的な取組（平成 24 年度）

「地域連携推進活動」（地域に生かす「トライやる」アクション）（土・日・長期休業中等の活動）

①実施校：208校

②参加生徒数：45,430人

③活動内容例：体験した施設等へ実施後の再訪問と体験、地域の伝統行事への参加及び運営補助、地域の方とのスポーツ・文化交流

「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など

本事業の円滑な実施のため、関係51団体代表からなる県「トライやる・ウィーク」推進協議会を開催し、関係団体への啓発や協力依頼を行うとともに、この協力体制を浸透させるため、各市町においては市町「トライやる・ウィーク」推進協議会を設置するなど、知事部局等との協働による県民運動としての支援体制が創り上げられている。また、学校・家庭・地域の連携を不可欠な要素としており、各中学校では中学校区「トライやる・ウィーク」推進委員会を設置し、保護者や地域等への事業趣旨の啓発や協力依頼を行うとともに、生徒の活動場所・指導ボランティアの確保を行うことや、生徒個々の興味や関心を生かした活動場所の開拓、活動の充実を図るための事前・事後指導や活動中の支援の在り方、不登校生への働きかけ、家庭との連携など取組が推進されている。

「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など

毎年度開催をしている受入団体から成る県推進協議会からの意見を次年度の事業展開に生かすとともに、5年目の評価検証によって、活動期間や対象生徒を広げる「トライやる」アクションの実施、10年目の評価検証においては、「トライやる・ウィーク」ブロック別研究協議会の開催や特色ある実践を集めた事例集の作成・配付など、事業の改善に取り組んでいる。

また、生徒の希望に応じた受入先を一層拡大し、事業の一層の充実を図るために毎年、各種産業団体に受入れの協力要請を行っている。

（訪問先 （社）兵庫県信用金庫協会、（社）神戸貿易協会、（社）神戸銀行協会、兵庫県港運協会、兵庫県石油商業組合、兵庫県印刷工業組合、兵庫県建設業協会、兵庫県商店街振興組合連合会、（社）兵庫県エルピーガス協会、日本ケミカルシューズ工業組合、（社）神戸市機械金属工業会）

「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など

事業をより充実させるために、体験教育報告、県「トライやる・ウィーク」推進協議会、担当者等連絡会等での協議をふまえ、以下4点を重点項目として取り組んでいる。

1 原点をふまえた活動の深化

「トライやる・ウィーク」の名称は「挑戦する：トライ」とともに「学校・家庭・地域の三者：トライアングル」の意味が込められている。本事業が実施されるようになった背景やその趣旨を再認識するとともに、生徒一人一人の社会的自立に向けた取組の一層の充実を図る。

2 ふるさと意識の醸成

ここ数年減少傾向にある文化・芸術創作体験活動、地域・郷土芸能活動等地域に根ざした活動を展開するとともに、地域の人々の温かさ、地域の良さやふるさとの恵みにふれることにより、生徒と地域とのつながりを深化させ、より幅広い体験活動を展開し、ふるさと意識の醸成を図る。

3 事前事後指導の充実

活動に向けての意欲を高め、目的意識を明らかにするとともに、地域の様々な人々の支援や協力により実施されていることへの感謝の気持ちを育む事前指導をより一層充実させ、規範意識の醸成に向けた生徒指導の充実を図る。また、体験で学んだことをその後の生活に生かすための事後指導について、一層創意工夫する。

4 市町「トライやる・ウィーク」推進協議会の活性化

生徒の希望に応じた受入先の確保が難しくなっている中、市町「トライやる・ウィーク」推進協議会の組織をより充実、活性化させ、受入先の確保や調整、各学校における活動の成果や課題の検証など、校区推進委員会を支援する体制を整備する。

「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

平成16年度からは、全市立特別支援学校中学部2年生の実施、土、日、長期休業中等を利用して「トライやる・ウィーク」の活動の日常化を進める「地域連携推進活動」（地域に生かす「トライやる」アクションの導入など拡充を図ってきた。

- ・「今後の青少年体験活動の推進について（答申・中央教育審議会）」において「学校・家庭・地域の連携による体験活動の推進」の項目の中で兵庫県教育委員会の本事業の取組が取り上げられている。
- ・これまでも多くの地方自治体、議会、教育機関から本事業について視察が行われている。（平成24年度：宮城県仙台市、長野県塩尻市、宮崎県、中央大学 本年度：韓国、京都府、新潟県）

学校現場の評価・感想・コメント

○教職員アンケートより（平成24年度 回答数：3, 230 肯定的回答割合）

- ・一人一人を大切に「トライやる・ウィーク」が実施できた。（63. 3%）
- ・「トライやる・ウィーク」が学校と地域社会の関係にとって有益な活動であった。（67. 3%）
- ・「トライやる・ウィーク」を通して生徒の新たな側面などの発見があった。（69. 6%）

○教職員の感想及びコメント

- ・中学校や家庭で指導しきれない部分を、事業所の方々が愛情を持って指導していただき、本当に有り難かった。
- ・自分も経験した活動だが、15年たって振り返ると、改めて中学生が夢の一步へ踏み出す“ステップ”になっている活動だと思う。

- 学校では見られない生徒たちの一面が、かいま見られて、生徒理解・認識に役立った。
- 可能な限り地域で活動するという取組は大変良かった。地域の子は地域で育てることが達成されていると思った。
- ふだんの学校生活で登校しづらい生徒にとって、気持ちに変化をもたらすことができる活動だと思う。
- 自分に与えられたチャンスを前向きに受け止めているものが多かった。
- 作業のやり方を丁寧に教えていただいたことに対して、生徒の感謝の言葉が多かった。
- 職業体験だけでなく、地域の人と触れ合うことや社会との関わりを持つチャンスでもあり、心の教育になっていると思う。
- 日常生活や学校生活と結びつけていくことが大切である。ボランティアの方々の指導ぶりに学ばされることが多かった。
- 学校が地域に支えられているということをもっと強く認識した。

直接連携・協働していない関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど

○トライやる・ウィーク評価検証委員会（平成20年3月）における評価

「トライやる・ウィーク」の充実ぶりを支えているのが、学校・家庭・地域の連携システムである。子供の教育を支援する営みを通して、地域に活気をもたらしたり、地域全体で子供たちの育成に関わろうという機運を醸成したりするなど、地域コミュニティの構築にも寄与している。

平成16年から始まった「トライやる」アクション等による中学生側から地域への働きかけや地域社会への参画が進んでいる。

○兵庫型「体験教育」の評価・検証委員会（平成23年3月）における評価

「トライやる・ウィーク」の各活動は、生徒一人一人の主体性を大切にしていることが評価できる。キャリア形成を図る社会体験やボランティア体験、芸術文化体験など多様な体験活動が行われており、多方面から高い評価を受けている。さらに、不登校児童生徒の再登校のきっかけとなったり、市立特別支援生徒が学校では見られない一面を見せたりするなどの好影響も見られる。